



華東師範大學

EAST CHINA NORMAL UNIVERSITY

非實創造 為人師表

# 上海における「学びの共同体」による 学校改革の現状と課題

## School as Learning Community in Shanghai: Progress and Current Issues

中国 華東師範大学 沈曉敏  
East China Normal University Shen Xiaomin

- I 中国に広がる「学びの共同体」
- II 授業改革の困難さ
- III 改革の困難に挑戦する先生方
- IV 今後の課題

# I 中国に広がる「学びの共同体」

CNKI(中国知網)で 題名「学びの共同体」を含む論文

1998年 1 篇

2002年 1 篇

2003～2010年 合計295篇

2011～2013年 合計420篇

会議のレポートと新聞に掲載されたものを含めれば、  
1998年～2013年まで、合計1047篇

# 「学びの共同体」に関する研究プロジェクト

中国における最高の人文社会科学研究基金「国家社会科学基金」の2010年度研究助成プロジェクト:

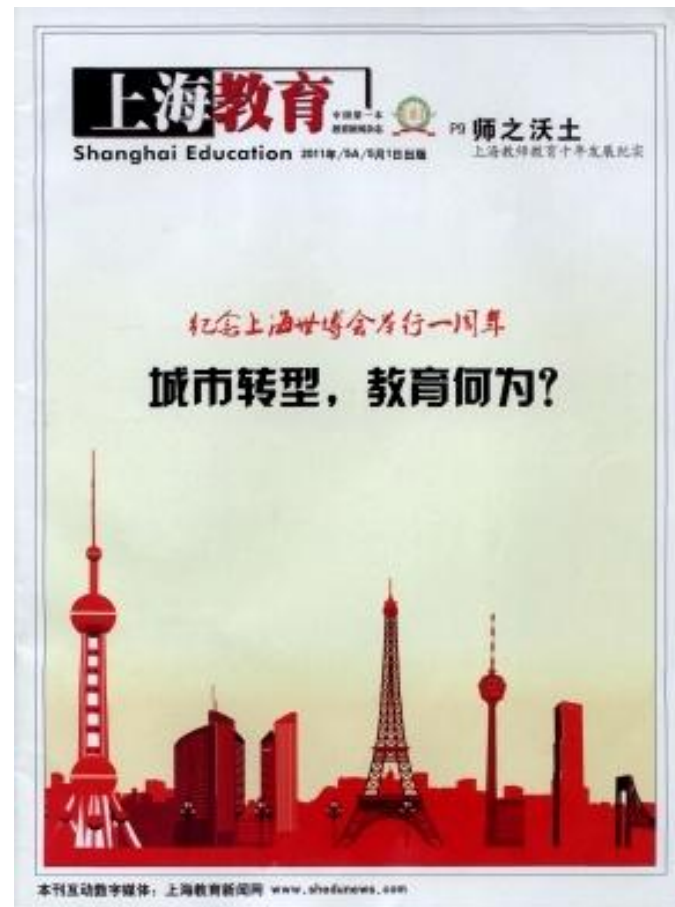
「大規模クラスにおける学びの共同体づくり  
及び指導方法の改革に関する研究」

## 「学びの共同体」は

- 1990年代の末に構成主義学習論の導入に伴って中国の教育研究者に知られるようになった。
- 佐藤学氏の著作が次々と中国で出版された後に、が中国の教育界に広く知られるようになった。
- 上海、北京、江蘇省、四川省、黒龍江省、内モンゴル自治区など、「学びの共同体」を授業改革、学校改革の理念とするようになった。

## 上海：中国で一番大きい都会

「学びの共同体」及び協同的、対話的な学びはより早く着目され、実践された。



# 「学びの共同体」が広がる要因

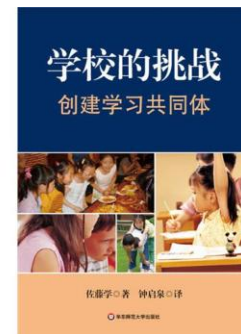
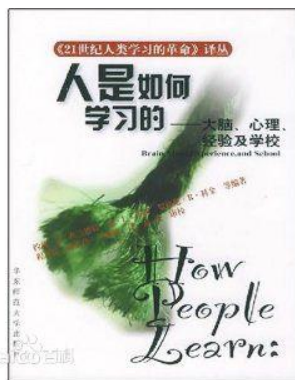
## (1) 政府主導の教育課程改革の推進。

すべての教師が研修を受けた。多様な講習会を通して、子ども一人ひとりの個性を尊重し、知識の暗誦より学び方の学びのほうが大事だという新しい教育理念と教育方法論を学んだ。



## (2) 大学研究者の提唱

- 構成主義、学習科学  
constructivism, learning science
- 日本における「学びの共同体」に関する研究と実践



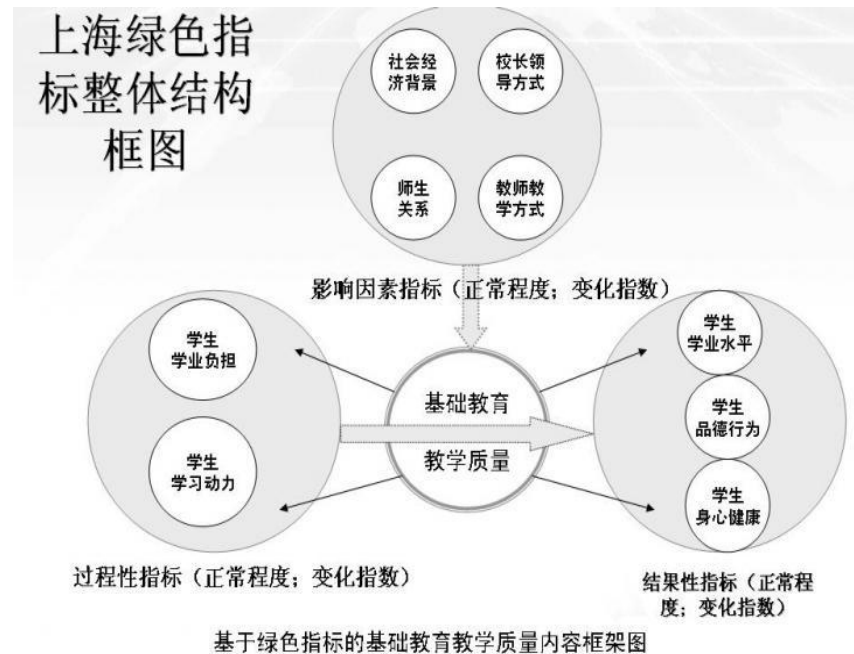


### (3) 上海市の学業質に関する評価基準の公布

「上海市における児童・生徒の学業の質を評価する  
グリーン指標」 **2011**

Green Indicators for Academic Quality of  
Shanghai Elementary and Secondary Students

- 児童・生徒の学力水準
- 学習意欲
- 学習負担
- 教師と児童・生徒間の関係
- 教員の指導方法
- 校長のカリキュラム・リーダーシップ
- 児童・生徒の社会・経済的背景が成績に与える影響
- 児童・生徒の品行
- 児童生徒の心身の健康
- 児童・生徒の学力向上に影響する各種要素の改善



# 从“小组合作学习” 谈绿色指标的校本化实施

上海市子长学校

2013-11-13



LOGO

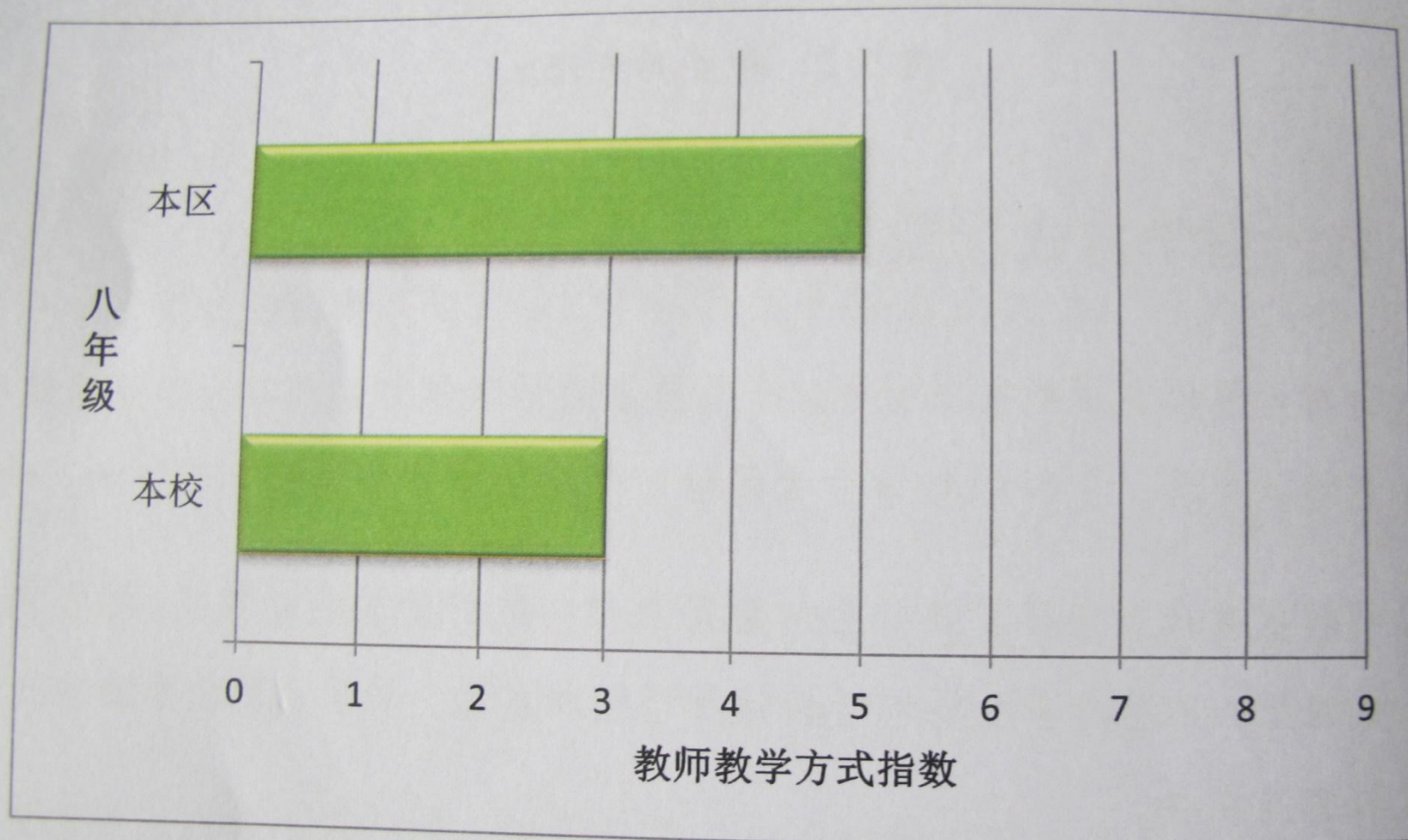


图 7-23 教师教学方式指数

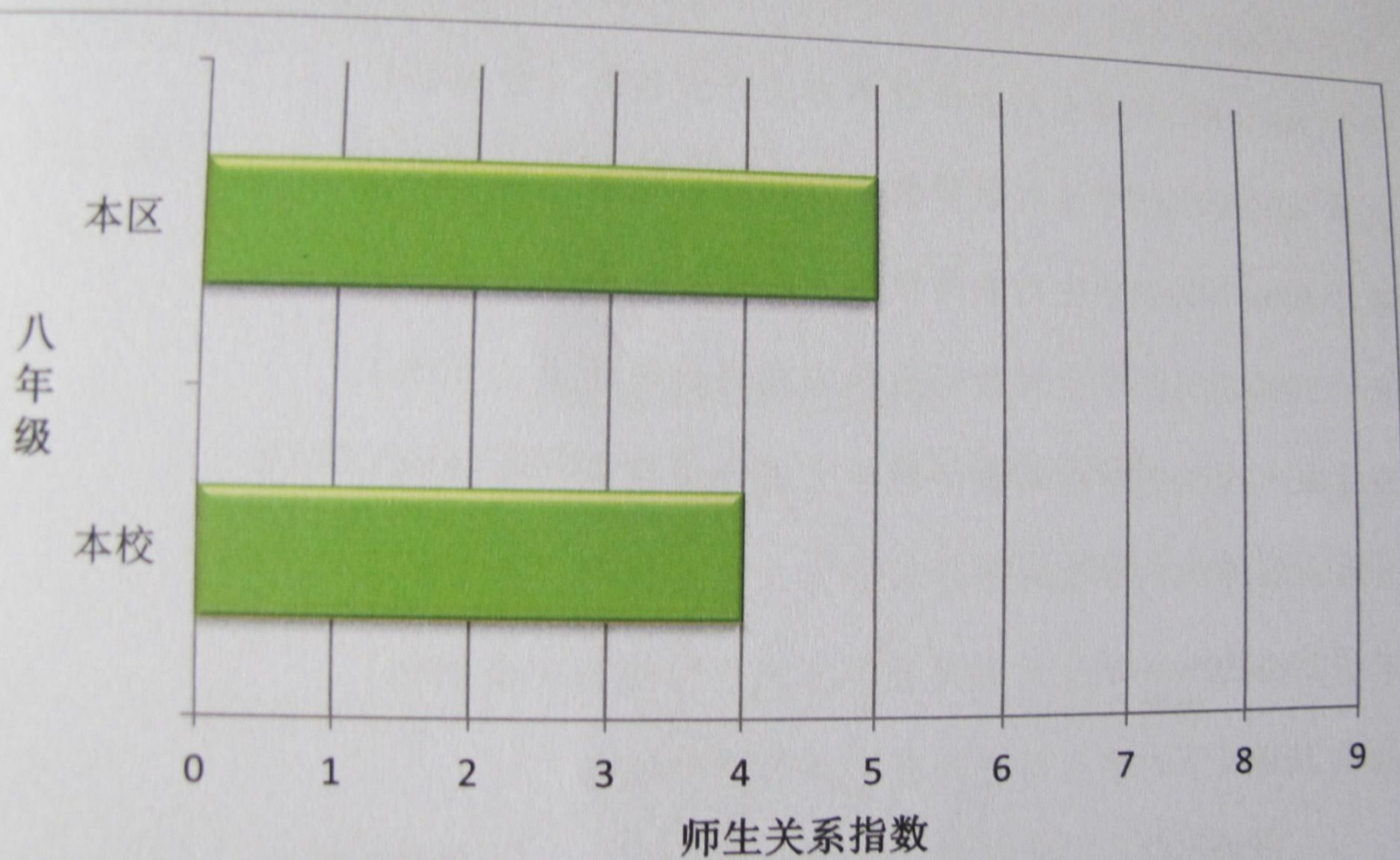


图 7-22 师生关系指数



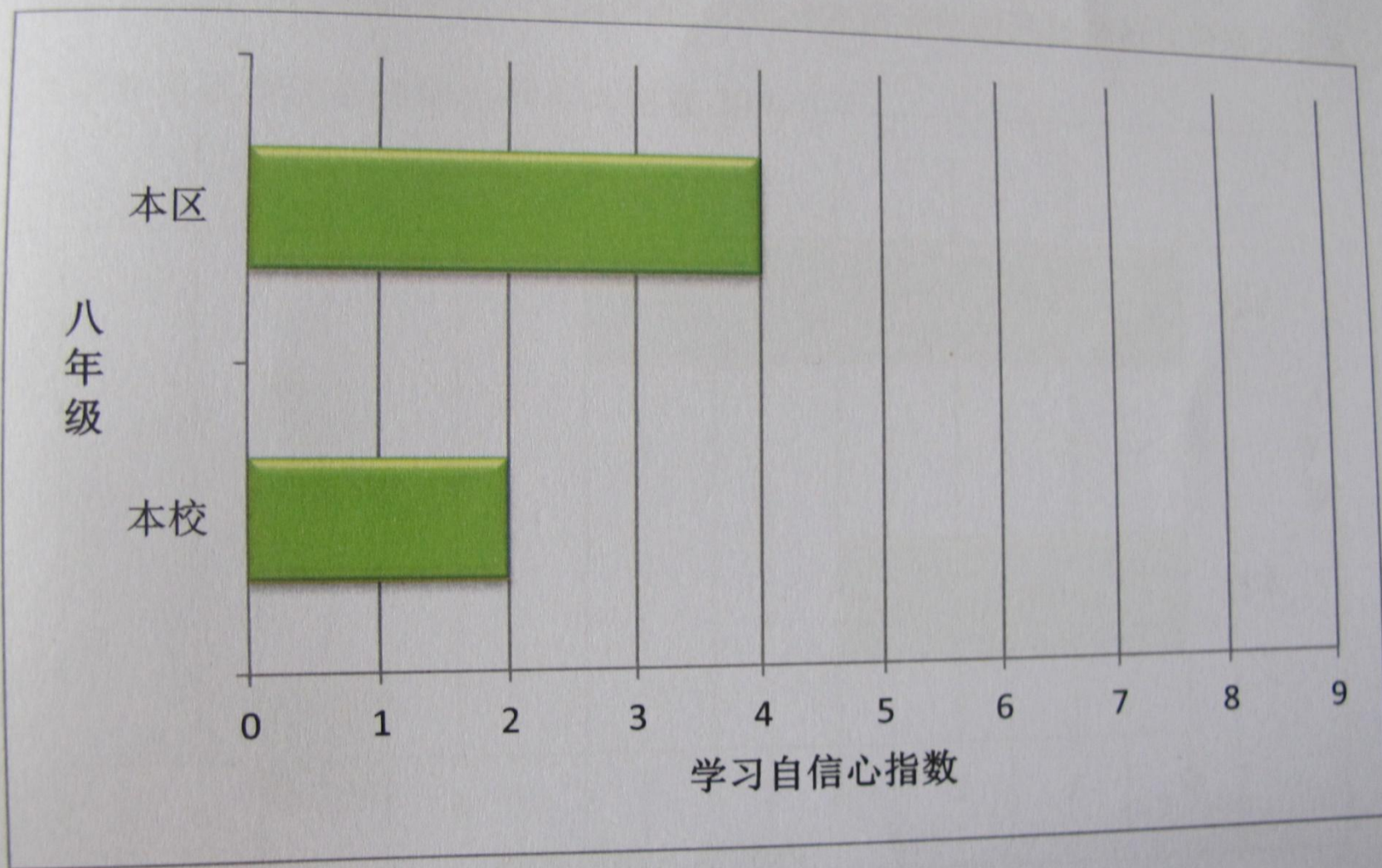


图 7-15 学生学习自信心指数

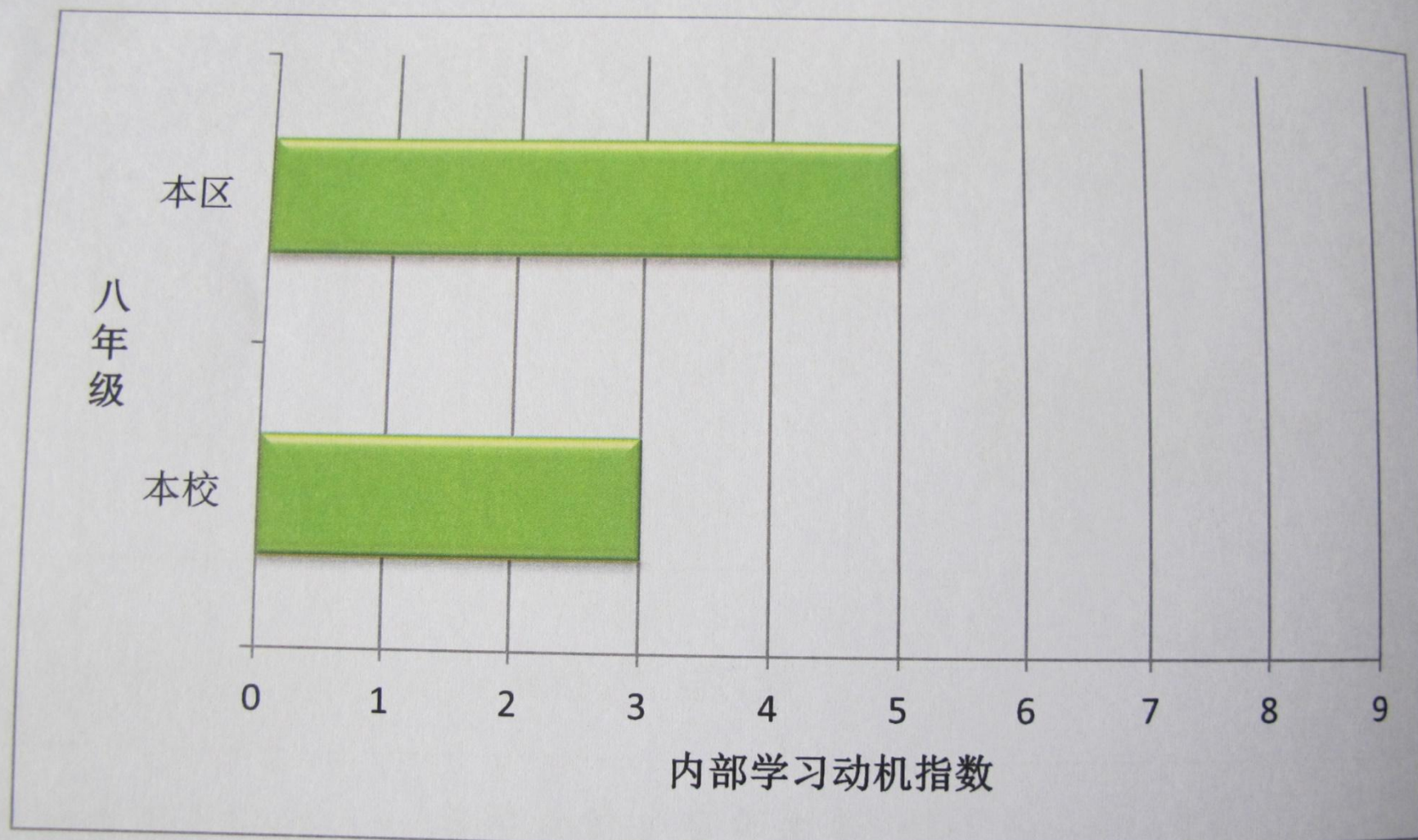


图 7-16 学生内部学习动机指数



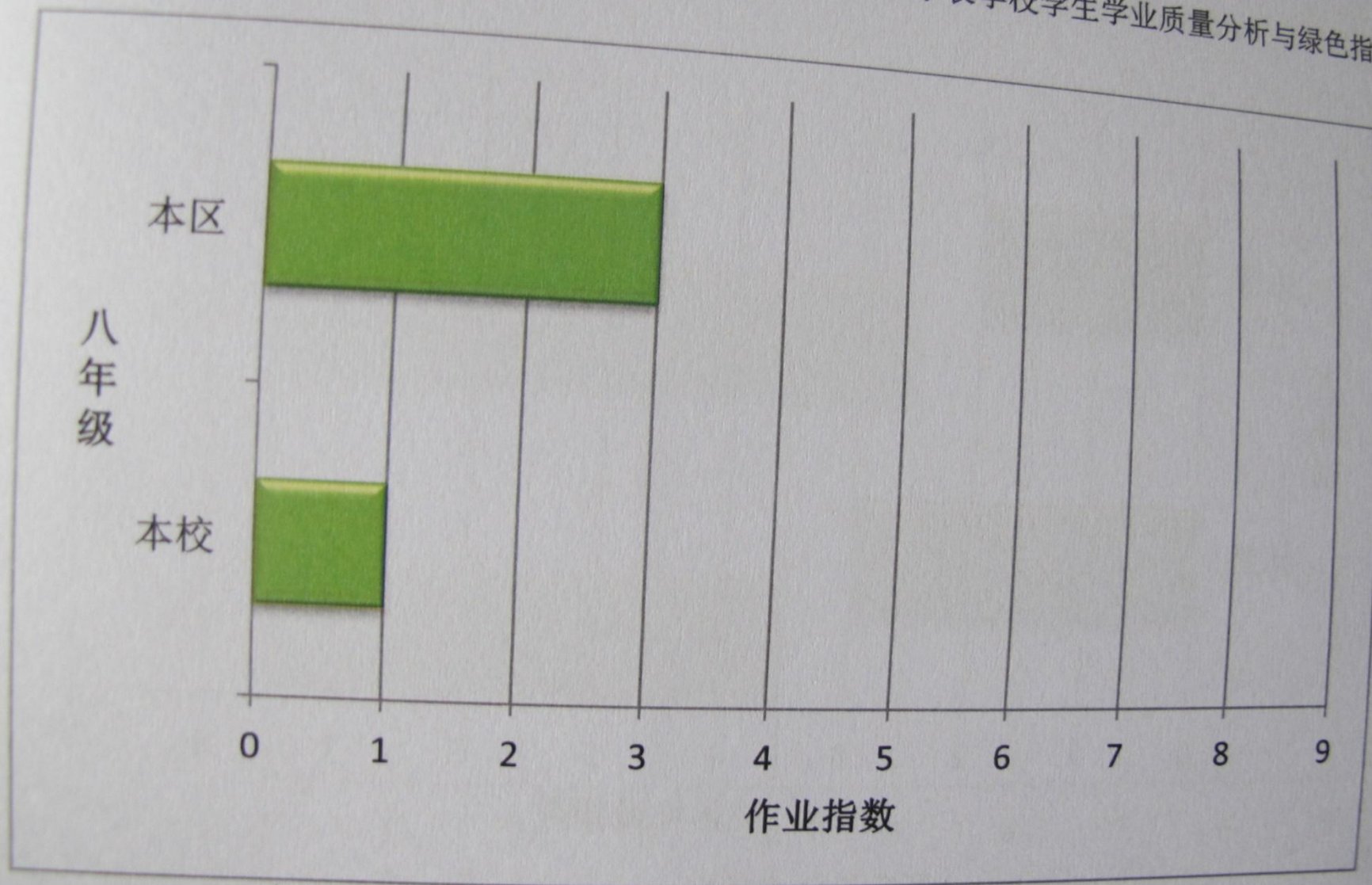


图 7-20 学生作业指数



图 7-25 给出了本校各指标雷达分析图。

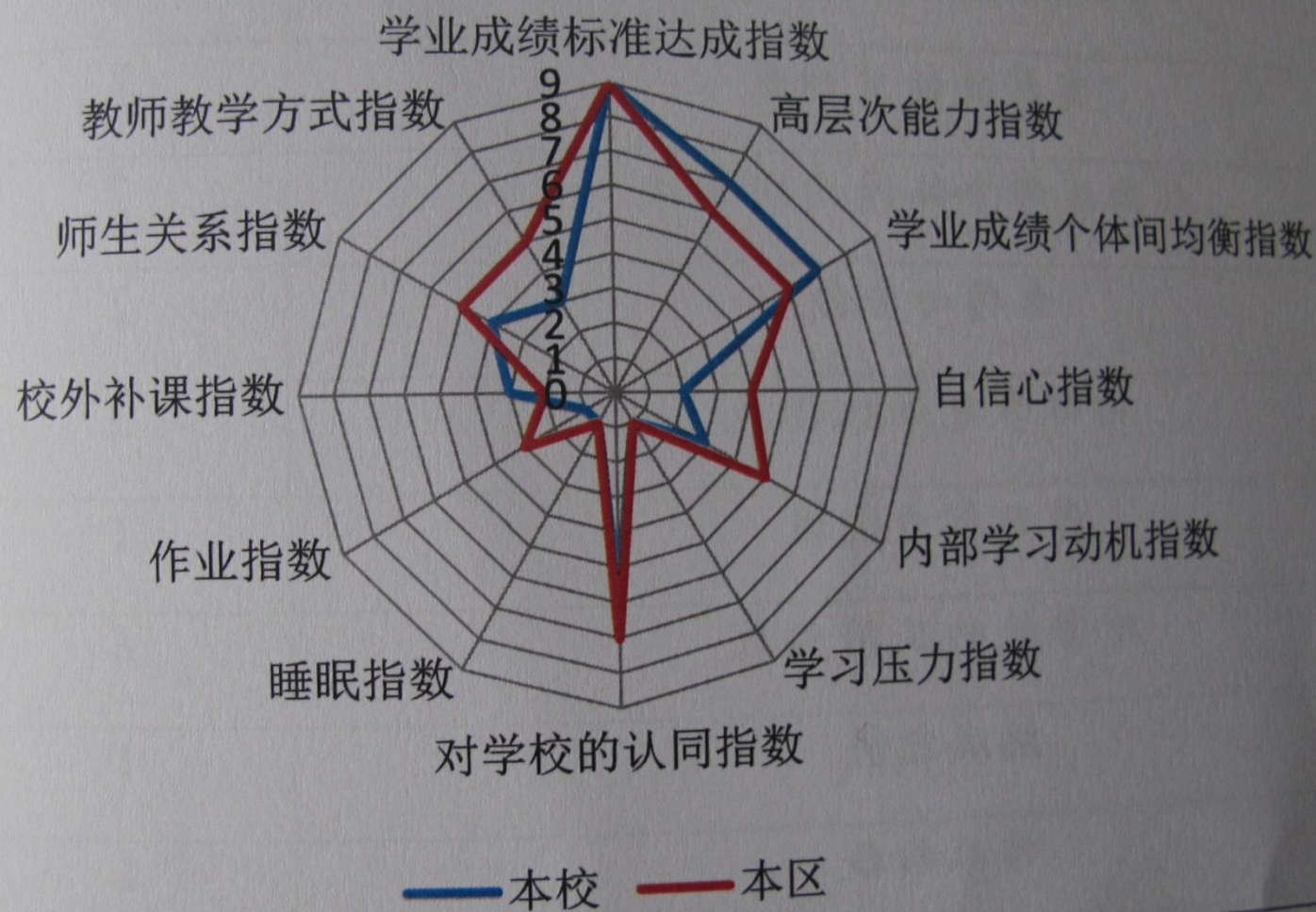


图 7-24 本校各指标雷达分析图

## (4) 勇気がある教師

**真の教育の理想を抱き、教師としての力量を高め、心身共に健康な子どもを育てることを実現しようとする気概のある教師が、今や「学びの共同体」による学校・授業改革を推進する重要な力になっている。**

## II 授業改革の困難さ

(1) 各教科の学習内容が日本よりかなり多すぎる。

例、小学校国語の教科書(上海教育出版社)

3学年上下二冊 それぞれ

8単元、合計40篇の文

8篇の古代詩

新しい漢字: 上冊322字

下冊208字



**(2) 区や県は統一試験を毎学期に頻繁に行う。**

**(3) 保護者は一人っ子の成績に対して過度に関心を寄せる。**

**(4) 一人っ子である児童・生徒は自己中心主義的で、助け合い、学びあう意識が弱く、競り合う意識が強いと思われる。**

**(5) 教師はこれまでなじんだ授業方法に固執して、簡単に授業スタイルを変えることはできない。**



### III 改革の困難に挑戦する先生方

上海において、「学びの共同体」による改革は、少数の教師と少数のクラスでの探索から始まる。

- 上海子長学校 (SHANGHAI ZICHANG SCHOOL)  
全校をあげて「学びの共同体」による改革を行う
- 一部の教師と学級。  
部分的に「学びの共同体」を実践している。

# 上海子長学校「学びの共同体」による学校改革

上海で中級レベルの学校 九年一貫性

2013年度 生徒数:660人(小413人、中247人)

教員数:79人

2006年から「学びの共同体づくり」をスター。目標:

- ①児童・生徒の学習共同体の形成
- ②教師の研究的学習共同体の形成
- ③学校・家庭・地域の協力的共同体の形成
- ④党・行政・組合・教師会による経営共同体の形成

最初の3年間は、②と④に重点を置いたので、授業は基本的に変わらなかった。

# 上海子長学校の「学びの共同体」による学校改革

2010年上海日本人学校（浦東校）との交流をきっかけに、改革の重点を子どもの学習共同体の形成に移すようになった。



- 最初は4人の教師が先頭。  
次第に、5人、12人、30人ほどにのぼっている。
- 管理層は**全校研修**、**教科別研修**、**学級別研修**、**課題別研修**など多様な研修活動を組織して、すべての教師が少なくとも教科別研究グループの中で、授業を一回公開する決まりを。
- 2013年に、全校に向ける公開授業：7回（7人）  
教科別グループの公開授業：138回  
全員で公開授業をした。





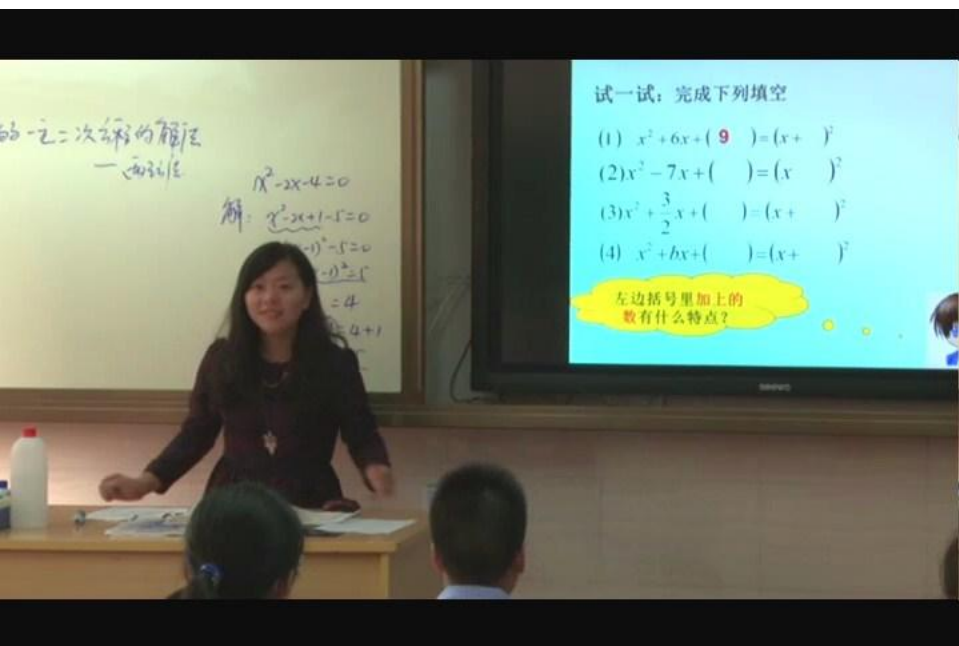
- 上海の浦東新区における教師の自発的授業改革
- 7校の教師 20人ほど
- 浦東新区教育発展学院の陳静静氏の支援によって、研究共同体をつくった。
- それぞれの学級で協同的な学び、「学びの共同体」づくりを試み、自発的に学校を越えて授業研究を行っている。



# 「学びの共同体」づくりがもたらした変化

## (1) 教師の子どもを見る目と子どもに向ける姿勢が変わった。

今まで、教師は授業の時間を惜しんで、子どもが十分に考え、討論する時間を与えず、子どもが質問に答えられなければ、すぐ説明し、結論を出した。子どもがわからない表情をしたり、小さい声で出した疑問や間違いを聞き取ろうとしないし、聞いたとしても対応せずに授業を進めるのが通常だった。それに対して、現在、教師はできない子、立ち遅れた子に対して、目がやわらかくなり、温かさが出るようになった。子どもが答えない時、励ます目つきで待つことができるようになった。



ビデオ: 子長学校 中2 数学、物理

## (2) 子ども同士の聞き合い学び合いが多くなった。

以前、教師が「グループで討論し始めましょう」とうながすと、5、6人のメンバで構成されたグループはどれもわいわいと勝手の話す状態になったり、できる子だけがグループの主人公のように振る舞い、興奮してしゃべり、グループ討論のあとではグループを代表して自分の意見をグループの意見としてクラス全員に発表したりした。グループの中には、授業とは関係ない内容をおしゃべりしている子もいれば、いつも黙っていた子もいた。そしてできる子がよく大きい声で話すので、クラス全体はさわがしくなった。現在、4人でグループを編成し子どもが聞き合い、考えながら話すようになったので、騒がしい討論が小声で話し合うようになった。



ビデオ： 子長学校 中2 物理



### (3) 授業を見る視点が変わった。

- これまで、授業を見る人はほとんど教室の後ろに立つか座って、教師の説明と行為を中心に授業をみて議論したが、現在は、多くの教師が教室の両側へ移動し、子どもの行為、表情を注目するようになった。



#### (4) 一部のクラスの子どもの学力がアップした。

周潔(Zhou Jie)先生は学校の中で「学びの共同体」を一番早く実践しはじめた教師の一人であり、中学校3年1組の担任であると同時に、3年間、その学級の英語を教え続けた。1組の英語の学力はここ2年間で飛躍的に進歩して、前学期の学期末統一試験の成績は普陀区公立学校の中で第一位になった。浦東区における「学びの共同体の研究」グループのメンバーが教えた学級も生徒の成績はほとんどアップした。その結果は、「学びの共同体」に疑いを持っていた教師に協同的な学びへ関心を引き寄せた。

以上の変化から、次の2点が示唆される。

第一、子どもは教師の予想以上に学び合い、助け合う力を持っている。

。



## 第二、教師が辛抱強く子どもの学びと成長を見守れば、協同的な学びが成功できる。

普通の教室において、教師がよく発する言葉は「早く早く」である。子どもの反応を待つ根気がない。子どもが間違いが起これば、すぐ直してやる。子どもに考えさせ、仲間と話し合い、試行錯誤に十分な時間を与えない。そのため、子どもが教師の指導に頼り、主体的に思考する力、仲間と学び合う力が弱くなっていく。

協同的な学びを導入して成功している教師は、必ず根気よく子どもの成長を待つ。

## IV 今後の課題

### 1. 「学びの共同体」の哲学の理解を深めること

- 中国の教師は、道徳的に尊重の意味を捉える。

「公共性」の原理から理解するならば、学びは子どもの権利であるので、尊重はただ態度だけではなく、教育者の責任であり、すべての子どもの学びの権利を保障する一連の行動であることがわかるようになることが求められる。「権利」を保障するという視点から、授業の改善を考える必要がある。

- 地域・保護者が授業の参観者ではなく、協同者として授業づくりに参加し、一人ひとりの学びを保障していくことができるようになるために、学校教育の公共性の意味を教師だけではなく、保護者も市民も理解してもらう必要がある。



## 2. 協同的な学びを支える力を高めること

一人ひとりの学びを支える力の成長に肝心なこと：子どもの願い、悩み、経験、学び方、考え方、思考体制などへの深い理解である。子どもをよりよく理解するために、授業研究の際に一人ひとりの子どもの学びをきめ細かく捉え、育ちの姿を確認・吟味しつつその理解と技量を磨いていかなければならない。

佐藤学：一人ひとりの学びの「省察の細やかさと確かさとゆたかさが創造的な授業の基礎を準備する」）  
（「学校の挑戦」、p282）

本日、学習院大学が国を超える学び合うプラットフォームを提供していただき、深く感謝を申し上げたい。

今回のシンポジウムをきっかけにして、アジアにおける「学びの共同体」のネットを築き、広がっていくように期待する。

いつか上海で、学びの共同体国際シンポジウムが開催されることを願っております。

THANK YOU

感謝